



虹のかけ橋

第34号/平成24年8月

兵庫県立 但馬やまびこの郷

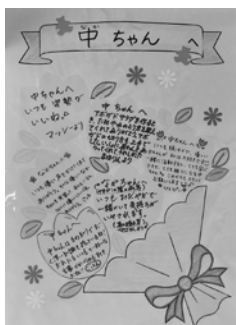
<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

温かい絆づくりを目指して！！

但馬やまびこの郷では、子どもたちや保護者及び指導者の皆様にとってより魅力ある施設であることを目指し、さまざまな取組をしています。今年度は特に、不登校やひきこもりなどの大きな要因である『コミュニケーション能力など人間関係を築く力』の向上をテーマに新しい取組を進めています。さらに、どんな活動をしているのかを具体的に伝え、安心して利用していただけるように、ホームページに新しいページを加えました。ここでは、当所の新しい取組についてご紹介します。

花束メッセージを送っています。

一緒に過ごした友だち一人ひとりに花の形をした色紙にメッセージを書いて送ります。みんなの花が集まると花束になるので花束メッセージと名付けました。1週間をふり返り、言葉を選びながら友だちへの思いを届けています。



「仲間づくり」リーフレットを発行しました。

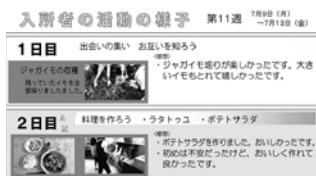
当所では「人間関係を築く力」を育むために「仲間遊び」を導入しています。このリーフレットはそのノウハウをまとめています。豊かな人間関係を築くことは不登校の未然防止につながります。ぜひ、遊びを取り入れた仲間づくりにチャレンジしてください。

お別れ会で歌う メッセージソングを新しくしました。

お別れ会では、スタッフから子どもたちへの思いを伝える曲を最後に全員で唱います。昨年度までは高石ともやさんの「もう一歩」。今年度からは、いきものがかりさんの「歩いていこう」です。傷ついても、悲しくても、歩いていくことの大切さを込めてこの曲を選びました。

但馬やまびこの郷ホームページに 「利用者の活動の様子」を追加しました！

但馬やまびこの郷ホームページに「利用者の活動の様子」がアップされています。写真と利用者の感想を載せ、一週間の活動の様子をわかりやすく伝えていきます。毎週更新していきますので、ぜひご覧ください。



やなさんの連載エッセー 「未来への扉を開く」

今年の4月より当所の柳原守副所長（通称：やなさん）が兵庫県北部や鳥取県で発行されている「日本海新聞」に毎月1回エッセイを連載しています。不登校の対応や但馬やまびこの郷のことなどをエピソードを交えながら紹介しています。これからも連載されますので、ご覧ください。





エンカウンターで不登校対応が変わる(1)

環太平洋大学 教授 住本 克彦



1 はじめに

今、本稿執筆依頼を頂戴し、とても懐かしい思いで原稿と向き合っている。というのも、筆者が但馬やまびこの郷の開設（平成8年9月）から3年間本所で勤務し、その間「虹のかけ橋」発刊事業を担当していたからである。学校と家庭を繋ぐ「虹のかけ橋」との思いでのネーミングであった。

本所は開設以来17年目を迎え、不登校児童生徒への寝食を共にしたサポートを継続してこられた。現・杉村省吾所長を中心としたスタッフの皆さんのご尽力によって、大いなる成果を上げておられることに、まずは衷心より敬意を表したい。



2 不登校対応について

筆者（当時は「スミさん」のニックネーム）は、当所ではカウンセリング担当として勤務し、その後、兵庫県立教育研修所で8年間、主に教育相談を担当し、現在、大学で学生相談を担当して6年目を迎えている。

不登校の子どもたちやその保護者の方々から学んだ「心のエネルギーを高める方法」として、以下の3点を挙げたい。

- ① 受け止めてくれる人がいれば、心のエネルギーは高まる
- ② 自分が好きなことに没頭すれば、心のエネルギーは高まる
- ③ 目標を設定し、その実現に向けての道程をイメージできれば、心のエネルギーは高まる

①については、子どもが、受容し共感してくれるキーパーソン（伴走者）の存在を実感できれば、その人とのリレーションの上に、「安心感」を実感しながら、心のエネルギーは高められるということである。

②については、やまびこの郷に来た子どもたちが、退所時よく口にしていた言葉「身体は疲れたけれど、心は元気になった」がそれを物語っている。不登校の状況にある子どもたちは、登校しないことを周りの人たちから絶えず責められ、学校へ行けない自分を自身で責めている。そんな中であって、自分がしたいことを自己決定し没頭することで、自分を責めることを回避し、心のエネルギーは高められるのである。

そして、③については、子どもが、長期的、中期的、短期的な目標を設定し、それらの目標実現への道筋をイメージできれば、多少の困難が現れようとも乗り越えていけるということである。当然そこにはキーパーソンの存在やプラス思考の習慣化等が重要になってくるのである。



3 エンカウンターについて

さて、本稿の結論は、構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter：以下 SGE）という技法の活用によって、不登校児童生徒の自我を健全化できるということである。つまり、SGE のプログラムを活用すれば、不登校児童生徒の現実判断力や適応力などが高まり、いじめや不登校等の子どもたちの問題行動を予防することや、不登校を好転させることにも効果があるのである。

SGE は、筆者の恩師である國分康孝が 70 年代後半に提唱したもので、ふれあいと自己発見を通して、参加者の行動変容を目標とした「集中的グループ体験」のことである。

人間関係づくりと自尊感情の育成に対して効果的な SGE は、その構成要素として、心の成長を支援する課題（エクササイズ）と感想・気持ちの分かち合い（シェアリング）を 2 本の柱としている。

SGE の流れを図に表すと、次のようになる。

SGE の基本的な流れ

- ① ねらいと内容の説明
- ↓
- ② ウォーミングアップ（心身の準備運動）
- ↓
- ③ インストラクション（エクササイズの内容等の説明）
- ↓
- ④ デモンストレーション（やり方の提示）
- ↓
- ⑤ エクササイズの実施
- ↓
- ⑥ シェアリング（気づきや感情の分かち合い）
- ↓
- ⑦ まとめ（教師からのフィードバック）



では、なぜ SGE を活用すると不登校が好転するのであろうか？

それは、SGE を通して、次の 6 つの能力が促進されるからである。

① 自己理解 ② 他者理解 ③ 自己受容 ④ 信頼体験 ⑤ 感受性 ⑥ 自己主張

さらに、これらの能力の向上が「**自尊感情の育成**」及び「**人間関係力の向上**」につながり、不登校児童生徒が「**生きる力**」を高めていくのである。

ただ、実践する際には、技法はあくまで技法にしか過ぎないということを忘れてはいけない。前述のように、支援者が、不登校児童生徒の「生きる力」を育てることを目標とし、子どもたちのキーパーソンになり、SGE を手段として、目の前の子ども達の心に寄り添ったエクササイズの展開を心がけることが、本プログラムの核心なのである。

今回は具体的なプログラムについて紹介したい。

参考図書 『エンカウンターで不登校対応が変わる』

（國分康孝・久子監修 片野・川端・住本・山下編集 図書文化社 2010）

やまびこの郷公開講座

但馬やまびこの郷では、毎年「不登校担当教員研修」の中で「やまびこの郷公開講座」を実施し、不登校担当教員だけでなく一般の教員の方にも講座を広く公開しています。今年度は、不登校対応について実践的な研究をされている東京学芸大学の小林正幸教授に「未然防止・初期対応の重要性と学校における支援のあり方」と題してお話をお聞きしました。その主な内容をお伝えします。



1 「受容対応」の意識について

次の4つの項目を実践することが不登校を出さないことにつながる。①本人の好きなこと・得意なことをさぐり、その面できち合うことを心がける②本人の安心できる場所を作る③活躍する場面をつくる④不安・緊張・怒り・嫌悪など不快な感情を言葉で表現できるように促す。

特に④については、聞き手が本人の感情を受け入れ、共有することが大切である。

2 不登校の形成要因と抑制要因について



不登校は、仲間関係、教師との関係、学業の不応感などのストレス因を長く感じていて、自分でストレス発散や問題解決できない子が嫌な場所から逃れることから始まる。抑制要因として、「人とうまくつき合っていく力」「がんばる力、我慢する力」を育てる環境をつくるのが大切である。さらに、「自分は誰かから支えられている」と思えるとストレス反応が下がる。

3 不登校の未然防止について

子どもたちにソーシャルスキルを育てるための教師の心得は、次の4点である。①教師自身が人づきあいのモデルとなる（挨拶上手、助け上手、かかわり上手等）②居心地のよい雰囲気をつくる③子ども同士でかかわる機会を増やす（人付き合い力のある子の力をさらに向上させ、仲間の支援につなげる）④人間関係で良かったと思える体験を数多く与える。

特に、良い体験をたくさんさせること、少し伸びたと感じる体験をさせることが大切である。

おいでよ！地域やまびこ教室へ

地域やまびこ教室では、「但馬やまびこの郷」のスタッフが、6地域に出かけ、いろいろな体験活動や交流会などを行います。

ぜひ、不登校や不登校傾向の児童生徒及びその保護者にお声かけ頂きますようお願いいたします。

【内 容】 児童生徒・・・ジャムづくり、棒焼きパンづくり・動物とのふれあい、レガッタ、ピザ作り等
保 護 者・・・保護者交流会

【期日・会場】

8月 8日～9日	神戸市立神出自然教育園・県立神出学園（神戸市）
8月17日	県立国見の森公園（宍粟市）
8月30日	加古川市立漕艇センター（加古川市）
9月19日	県立一庫公園（川西市）
9月21日	遊び村冒険広場ささやま（篠山市）
11月 1日～2日	国立淡路青少年交流の家（南あわじ市）

